

人口減少社会における深刻な人手不足
雇用対策と企業経営

群馬ニュービジネス協議会会長
中島 利郎 氏

世界と日本人口推移の中で将来的には世界的には人口増加傾向の中、日本では減少する一方であることが予想されております。国内の生産年齢人口比率を見ても高齢化に伴い、減少傾向になると考えられます。

そんな中、外国人労働力の活用に注目が集まっています。それに合わせて留学生の人数が増えており、特にベトナムの留学生が平成25年度から26年度にかけて2倍近くに増えています。人口減少社会における深刻な人手不足の中で、外国人の労働者の雇用と育成が雇用対策の一つのテーマに挙げられます。

日本の熱い視線
チャイナプラスワンベトナムー

公益社団法人ベトナム協会 常務理事
小川弘行 氏
ベトナム教育訓練省国際教育相談センター推進員
Nguyen Canh Toan

ベトナムの経済・社会・社会、そして人柄まで幅広くかつ密度の濃い内容でお話をいただきました。

経済面では、実質経済成長率は、2011年不動産危機により、2013年まで悪化していましたが、2014年から回復の兆しをみせて、6%弱の成長率となりました。一人当たりのGDPを見ても1990年比で21倍に増えています。人口構成でも日本の平均年齢が約45歳に対してベトナムは約30歳と若い労働力の人口比率が高くなっています。貿易関係では、日本とは輸出入のバランスが取れていて、輸出相手国としてアメリカに次いで日本は2位になります。日本企業の進出は、会員登録されている企業が1,474社にのぼり、5年間で1.76倍に。

政治面では、極めて良好な関係を築いています。2009年に戦略的パートナーシップを結び、2014年には広範な戦略的パートナーシップに格上げされました。日本からの投資件数は、2013年には過去最高の291件となり、追加投資も増えています。その背景には、ベトナムの技術力の向上が考えられます。同じように他国においてもベトナム投資に力を入れている状況です。今までは主に製造業の投資形態が多く見られていましたが、昨今、サービス産業の進出も注目を集め、今後さらに増加していくことが考えられます。イオンモールはすでに進出している企業の一つになります。日本からのODAも多く、最近完成した代表的な施設は、ハノイのノイバイ空港やニャンタン橋となっています。

ベトナムの課題としては、税収の取り方が悪く国の財政が思わしくないので税収の抜本改革と汚職の撲滅、上下水道のインフラ整備が主に挙げられます。

ベトナム人の日本語学校留学が平成26年で11,022人となり、5年前の10倍以上になっています。ベトナム技能実習生は、85,499人（2015年4月現在）という数字が出ています。労働力不足を解消するため、こうした技能実習生の検討業種として、清掃分野、介護分野などが挙げられています。

最後に、ベトナムでビジネスを成功させる秘訣やベトナム人の性格についてお話をしました。秘訣は、人、気心の会うパートナーとの出会うことが大切です。性格面では、個人的な意見との前置きした上で、明るく、笑いが絶えない、熱しやすいなど詳細にふれていただきました。そして、記念日を大切にするので記念日を活用した指導が必要とのことでした。